

子育てママによる

子育て支援活動を
すすめる

茨城県つくば市
特定非営利活動法人ままとーん





「子どもが夜驚症で悩んでいます。夜も大泣きしますし、汗もかいています。いつころまで続くのでしょうか？ 私自身が倒れそう」「二人目を妊娠中。もともと、心配性だったので、妊娠してからよけいひどくなりました。戸締りが気になって、何回も確かめてしまいます。現在の世界情勢や環境問題について、自分ではどうしようもないのに、悲観的に考えてしまつて、こんな時代に生まれてきた子どもは、幸せだろうかとか考えてしまいます」。

こんな子育て中のママや妊娠中のママの悩みごとが、NPO法人ままとーんが主催するホームページの「おしゃべり掲示板」に寄せられる。この悩みに、同じ悩みを抱えているママの体験談やアドバイスが返信される。そして、「そんなに悩まないでね」「一緒にがんばろう」という言葉がかならず添えられる。悩みを打ち明けたママは、悩んでいるのは自分ひとりだけではないことを知り、励ましの言葉に心が癒される。掲示板には悩みの相談だけでなく、「出産後、骨盤矯正をしたいのだが、どこか良い病院をご存じない？」「年子の育児を経験されている方、子育て乗り切り術で何か良いアドバイスを」などというのものもある。

ままとーんは、茨城県つくば市を中心とした県南地域を活動領域とする子育て支援団体。平成十一年、つくば市とその周辺に住む子育て中のママたちが自ら立ち上げた。最初に取り組んだのは、茨城県南クチコミ育児情報誌と銘打った冊子「ままとーん」



の発行。創刊号では、「つくば妊娠・出産情報」と題した特集を組み、近辺の病院、助産院を紹介した。所在地にはじまり、診察内容、健診費用、子連れ入院の有無などの情報に加え、そこに雇った人たちの感想、意見も掲載した。ほかにも託児所や育児サークルの紹介、ベビーカーでも入れる飲食店情報なども盛り込んだ。この冊子は、本屋さんの店頭にも並び、子育て中のママからは、「こんな本を待っていた」と大好評だった。今年の六月には六号目を刊行した。六号の特集「子連れで出かけ大百科」では、公園などをメンバーが実際に取材をして記事にしている。また、今回幼稚園の特集記事も組んだ。印刷、製本以外の企画、取材、執筆、レイアウト、校正、発送、さらに広告営業、販促は、すべてスタッフがこなしている。創刊号は十二人でスタートしたが、号を経るにしたがいスタッフが増え、六号では四十人近くのママが関わっている。二千五百部を印刷したが一か月で完売、増刷したという。

ままとーんのもう一つの大きな取り組みが、「出会うの場」の提供。つくば市はご存知のように転勤族の多いまち。知り合いもなく、幼児と一日中家に閉じこもり孤独な子育てをしているママたち、そんなママたちに出会い場づくりとして、「ウエルカムパーティー」を毎年開いているほか、市内赤塚にある事務所では、毎週二、三回「茶のみdeままとーん」という子育て広場を開催している。ここでは、「手遊びの日」「ヘアカットの日」「食育の日」などが



設けられ、専門家によるアドバイスを聞くとともに、親子そしてママ同士の交流の場にもなっている。そして、冒頭に紹介したインターネットによる情報発信、相互交流も重要な活動。事務所裏の雑木林を子どもたちの遊び場にと「ちびとーんの林」も作った。ここでは、パパたちが大きな役割を担っている。

冒頭、ままとーんを「子育て支援団体」と紹介した。たしかに子育てママに対しての支援活動は大きな役割を占めている。しかし、子育て活動を通じて活動は広がりを見せている。冊子の編集、取材、営業、販促に係わることにより、メンバー自身のスキルアップにつながることはもちろん、地元の農業女性の会などと一緒に「わの会」を立ち上げ、収穫祭を開いたりして、新・旧住民の交流をはかっているのもその一つ。総合的な学習にも参加している。そして、もっとも大きいのは、マスコミ、冊子「ままとーん」、インターネットをそして、日々の活動を通じての子育てに関する意見・実態の発信である。地域での子育てが叫ばれたて久しい。しかし、育児・子育て観は、世代により大きく異なる。そんななか、現役世代からの発信は、地域の子育てをより実効性のあるものにするために大きな意味を持つといえる。

■連絡先 三〇五・〇〇六二

つくば市赤塚六四一一

TEL〇二九・八三八・五〇八〇

<http://www.tsukuba.or.jp/~mamatone/>